



JA柳川
「センドくん」

わたしたちのJA 自己改革への取り組み

JAは、組合員が出資・運営し、自らが必要とする事業の利用を目的とする協同組合です。農業者と地域住民が必要とする営農と生活を支える総合事業を展開しています。

地方の人口減少や超高齢社会、農業者の高齢化等による農業生産基盤の急速な脆弱化などの厳しい環境下で、農業振興、地域振興、農業・農村の多面的機能の発揮に重要な役割を發揮し続けるため、JAは、総合事業を営み、そこに住む者の力の全てを結集し、農業者・地域住民が一体となった協同活動に取り組みます。

こうした取り組みで、「持続可能な農業の実現」「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」「協同組合としての役割發揮」をめざします。

これらをふまえ、第27回JA全国大会実践期間中(平成28～30年度)は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を通じた「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に取り組みます。

JA柳川が取り組む自己改革 I

農業者の所得増大・農業生産の拡大への取り組み

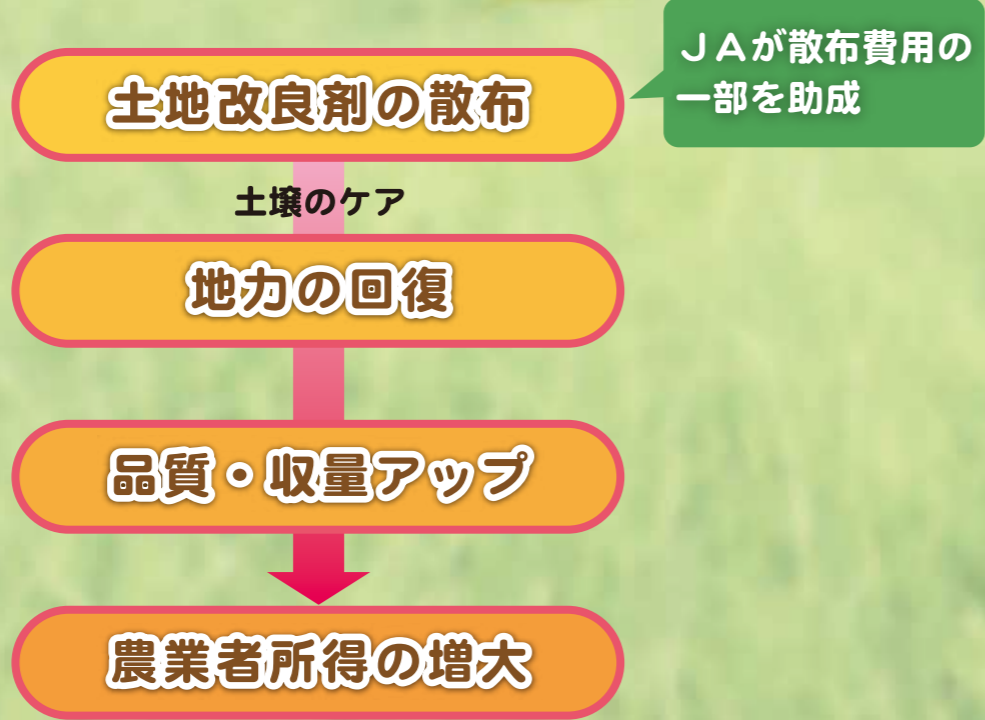
土壌改良剤共同散布費用助成制度 (JA柳川独自の取り組み)

JA柳川では、米・麦・大豆のブロックローテーションにより、生産量を大幅に増やしてきました。しかし近年、地力の低下による減収と品質低下が進んでおり、その対策が喫緊の課題となっています。

このことから同JAでは、営農組合ごとに散布面積と作業オペレーターの組織図を提出してもらい、その散布面積に応じ費用の一部を助成することといたしました。営農組合による共同散布のメリットは、ブロードキャスター等による機械散布と、大型規格資材(フレコン)を使用することで、大幅な作業時間の短縮と資材コストの削減につながります。



「土壌改良剤」大型機械による協同散布の風景



平成29年度は9営農組織が協同散布に取り組み、約500畝散布されました。同制度に基づき営農組織へ助成いたします。

